

今回の瓦版では、平成26年1月22日(水)に郡山市で開催された「平成25年度地域づくり交流会」の結果をお知らせします。

県内の地域づくりの参考となる内容ですので、各地でご活用いただければ幸いです。

平成25年度地域づくり交流会 結果報告

1 プログラム

入場無料 平成25年度地域づくり交流会

地域づくりに取り組む住民組織や市町村・県の職員等が、それぞれの経験や課題を話し合い、今後の取り組みのアイデア等を考え、今度の地域づくりに活かすために参加相互の意見交換・交流を行います。

日時: 平成26年1月22日(水) 10:30～15:30(開場10:00)
場所: 郡山市ニコニコ子ども館(郡山市役所脇、郡山市桑野1-2-3) 3F研修室



講師プロフィール

島村 菜津(しまむらなつ)
ノンフィクション作家。福岡県出身。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。10数年にわたる取材を元にしたイタリアの食に関する『スローフードな人生!』(新潮社)が話題になり、日本の『スローフード』の先駆的存在。そのほか日本や世界の各地への取材・紀行を題材に、著作や寄稿等多数。最近では『スローライフ(光文社)や『スローな未来へ!』(小学館)などライフスタイルや地域の宝を生かした地方活性化など新しい分野にも挑戦している。

参加対象者

- 行政(県、市町村)
- まちづくり団体
- 商工団体
- まちづくりに興味のある方等

どなたでも参加できます。
第1部のみ参加でもOKです
のでお気軽にご参加下さい。

プログラム

■第1部 講演会
10:30～11:30 基調講演
演題 『人間中心のまちづくり』
講師 島村菜津氏(ノンフィクション作家)
11:30～11:45 地域づくり車座インディーズ
結果報告
昼食(各自 11:45～13:00)

■第2部 交流会 ※概要は裏面のとおりです。
13:00～15:00 グループ討議
15:00～15:30 全体会

※プログラムは変更になる場合があります。 問い合わせ、申し込み先は裏面をご覧ください。

主催: 平成25年度地域づくり交流会運営委員会
(福島県、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、(公財)福島県区画整理協会、福島県都市計画協会)

交流会(第2部の概要)

下記①～④の分野毎に、まちづくりの悩みや成果を話し合い、アドバイザーを交えて今後の取り組みに参考になるような話し合いをします。

全体会コーディネーター: 佐藤彰彦氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)

①グループ「中心市街地の活性化(商店街の活性化)」

アドバイザー: 箭内裕二郎氏(株)福島まちづくりセンター 事業部長
阿久津昌生氏(会津まちづくり応援隊会長)

②グループ「中山間地の活性化」

アドバイザー: 島村菜津氏(ノンフィクション作家)
関元弘氏(ふくしま農家の夢ワイン(株)取締役)
佐藤義弘氏(喜多方市企画政策課過疎地域集落対策室室長)
高木亨氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)

③グループ「歴史・景観を生かしたまちづくり」

アドバイザー: 土方吉雄氏(日本大学工学部建築学科准教授)
金親文史氏(NPOまちづくり喜多方理事)

④グループ「観光によるまちづくり」

アドバイザー: 横田純子氏(つむぎ企画代表、NPO素材広場理事長)
吉田樹氏(福島大学経済経営学類准教授)

※グループ討議の際、それぞれの話題提供のための地域の自慢のもの(食べ物、写真、地域のマップ等...)があれば、当日お持ち下さい。

参加申込書 送付先: 福島県土木部まちづくり推進課 小水行き FAX024-521-7956
申込締切: 1月15日(水) メール machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

氏名	所属団体	連絡先		参加希望(希望箇所に○)				
		電話番号	Eメールアドレス	第1部のみ	第2部(希望分野に○)			
					①	②	③	④

第2部に参加する場合は、当日話し合いたい内容を簡単に記載して下さい。

申し込みの際に提供いただいた個人情報は、本交流会以外には使用いたしません。
なお、第2部の参加人数によっては、グループの振り分けが変わる可能性がありますのでご了承下さい。

問い合わせ先: 福島県土木部まちづくり推進課 小水(こみず) TEL024-521-7511

2 開会あいさつ(県土木部 長谷川参事)

- ・今回の交流会は、県の部局間連携として地域振興課、商業まちづくり課、まちづくり推進課が協力して企画した。その上で福島大学等による運営委員会を組織して実施するものである。
- ・島村菜津氏の講演は、人が中心で、人が生き生きするまちづくりのヒントが得られると思う。
- ・県内各地で地域づくりが進められているが、一歩進んだ取り組みをする段階に入っていることから、午後の交流会ではテーマ毎にグループで考える内容とした。
- ・本県復興の重要な点は、地域が元気になること、そして元気を発信していくことである。この交流会がそのきっかけになればよいと考えている。



2 基調講演（作家 島村菜津氏 「人間中心のまちづくり」）

- ・イタリアの多くのまちを訪れてきたが、イタリアと日本はよく似ている。例えば農産物が多様で、中山間地が多い。
- ・イタリアと日本の大きな違いは、イタリアの地方の人は「揺るぎない自信」を持っていることである。人間力が底力となっている。今日はこのことを皆さんに伝えたい。
- ・イタリアスローフード協会は、地域でがんばっている人と消費する人をつなげている。「食」の人を引きつける力はすごい。
- ・オステリア（地元の伝統的な料理を出す店）ガイドが毎年発行されており、非常に好評である。「福島版オステリアガイド」があると良いと思う。
- ・不便で古い民家でも水回りをしっかりした上で宿泊に使う仕組み（アルベルゴ・ディフォーゾ）がある。村にレセプション1つ、食事はレストランということも出来る仕組みである。不便が価値を持つようになってきた。
- ・徹底して人間中心で、歩いて楽しめるまちをつくっている。車を入れない区域を設けたり、たくさんのベンチを置いたりして、たくさんの交流の場がある。
- ・「地元の人々が幸せなまち」が大事で、このようなまちは訪れる人も幸せな気分になる。
- ・福島にも良いものはたくさんある。誇りを持つことが大事である。
- ・農山村では、農家民宿等に宿泊できるようにすることは必須だと思う。



【参加者アンケート（第1部）から】

- 「あるものを生かす」ことに賛同した
- 住んでいる人が幸せなまちづくりが大切であると再認識した
- 地元のおばちゃんが料理をしている風景を見せることで、食の安全を自然に行っていることが印象的だった

3 地域づくり車座インタビュー結果報告（県地域振興課 和田主幹）

- ・県内の過疎中山間地域には、住んでいる人が気づかない資源がたくさんある。また、資源を見つけても活かし方がわからないという現状がある。
- ・県では奥会津地域、あぶくま地域に力を入れて取り組んできたが、豪雨災害等の被害を受けたことから、現状を把握するため約120人や団体にインタビューを行った。
- ・意見の傾向として、地域のリーダーや担い手が不足している、地域内での雇用の確保が難しく地域資源を活かした産業育成が求められている、病院やインフラ整備が必要である等が挙げられる。
- ・H26 は外部から人を呼ぶ施策、地域資源を活かす取組支援を強化する施策を考えており、3月下旬に各地方振興局に相談して欲しい。

4 交流会（グループ討論、全体会）

午後の交流会は、4つテーマで5グループに分け、参加者それぞれの「具体的取組」「課題」「聞いてみたいこと」をワークショップ形式で討論し、発表しました。

各グループの発表内容は下記のとおりです。



①グループ「中心市街地の活性化（商店街の活性化）」

- ・キーワードは「人材」「空き店舗」「交通」「イベント」
- ・人材の解決策→リーダーの定期的な交代（世代交代。フットワークの軽い人なら誰でも交代可能）
- ・空き店舗の解決策→適切な家賃の交渉、繁盛店をつくる（派生効果あり）
- ・交通の解決策→まちなか周遊バスの充実、歩行者優先のまちづくり（高齢者・子育て世代にも配慮）
- ・イベントの解決策→店に入るきっかけづくり（まちゼミ、一店逸品等）、利益を得る人が主体で（売上げにつながるイベントを）等



②グループ「中山間地の活性化」

- ・キーワードは「自分の地域を知る」「価値観」「外との繋がり」「情報発信」
- ・地域を知るための具体的取組→買物弱者の支援、水棲動物調査、井戸水水質調査等
- ・価値観→東京が全てという意識を変える。田舎の豊かさ認識
- ・外との繋がり具体的な取組→川遊び体験、そばまつり、学生との交流等
- ・情報発信の具体的取組→ホームページによる魅力発信、地域の宝探し等
- ・子どもと女性の参加が大事
- ・目に見える成果による住民意欲の向上



とりまとめ結果

③-1グループ「歴史・景観を生かしたまちづくり」

- ・キーワードは「人」「資金」「交通」「インフラ」
- ・人の解決策→若者の参加として学生やアーティストの例がある
- ・女性が中心となり、子どもたちに伝えるもの（マップ等）を作成している例は、地域づくりを広げるのに役立っている
- ・資金の解決策→インターネット上で資金を集めるクラウドファンディング等
- ・交通の課題→交通の便が悪い、駐車場が無い等
- ・インフラの課題→空き家があるのに住めない、空き教室を公民館にしたい等



とりまとめ結果

③-2グループ「歴史・景観を生かしたまちづくり」

- ・キーワードは「人」「きっかけ」「参画」「システムづくり」「ネットワーク」
- ・人の解決策→時間をかけて地域の人を説得する、外の若者が入ることで地元の若者が触発される等
- ・きっかけの解決策→白河蔵ウォーク（所有者の意識が変わった）等
- ・参画の解決策→楽しさを知ってもらう、小さい頃からの教育等
- ・システムづくりの解決策→歴史まちづくり法の活用等
- ・ネットワークの解決策→県内でのネットワークづくり、一元的PR等



とりまとめ結果

④グループ「観光によるまちづくり」

- ・キーワードは「商品づくり」「行政との連携」「人」
- ・商品づくりの解決策→少人数観光や着地型観光がターゲット、地域の良さを入れることが必要等
- ・人っておもしろい、マスコミが興味を持つのは人
- ・人の解決策（人づくり）→「バカ者」（楽しくやれる人、突破力のある人、続けられる人）を探す、ネットワークが大事、子育て中のお母さんに地域づくりの視点で声をかける等
- ・行政の役割→ネットワークの場づくり



とりまとめ結果

まとめ（福島大学 佐藤特任准教授）

- ・各グループの共通項としては、「人」「地域」「継続（残す）」等が挙げられる。
- ・「暮らし」が大事。地域に根付いてきたものを継承していくことは、まさに「暮らし」そのものである。
- ・今回ような大学等の専門家を入れたネットワークの場が重要である。



【参加者アンケート（第2部）から】

- 意見を出し合い交流する形式は有意義であり、次回も開催して欲しい
- 各地のまちづくりの工夫・努力を知ることができた
- グループ討議の会場は広い方が良い
- 地域活動商談コーナーがあると良い

5 閉会あいさつ（福島県区画整理協会 藁谷理事長）

- ・交流会は地域づくりを進める上で有意義なものだったと思う。
- ・県が復興を進める上で、地域が元気になることが重要であり、活力ある地域づくりが行われることを祈念申し上げる。
- ・協会の「地域づくり活動支援事業」を活用していただきたい。

<http://www.fukushima-kukaku.or.jp/about/guidance/index.php>



【グループ討議、発表の様子】



■ 編集後記 ■

地域づくり交流会は、震災時を除き毎年開催しておりますが、今回はこれまでのアンケート等を基に、各地の取組みを一步進める際の参考となるような企画を練りました。次年度以降も有意義な交流会となるような内容にしたいと考えております。

地域づくりを進める上での質問等がありましたら、まちづくり推進課へ遠慮無く連絡下さるようお願いいたします。（伏見）

メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン（無料）の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、[まちづくり推進課のメールアドレス machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)まで希望する旨ご連絡下さい。

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670（住所記載不要です）
TEL 024-521-7511
FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>